

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

新緑も爽やかな5月。新学期がスタートして、約1カ月が過ぎました。新しい生活にもようやく慣れてくると同時に、新たな気持ちで勉強に取り掛かろうとしている人も多いのではないのでしょうか。

さて、ここで昨年度の入試を振り返り、今後の学習を進める上でのアドバイスをお伝えしたいと思います。

前回掲載したように、文部科学省の「入学定員超過による私立大学等経費補助金の不交付の基準を厳しくする」という方針から、それを順守する大学が増え、合格者数が減少していることを取り上げました。

それに加え、昔ながらの一般受験の定員枠自体が減少している大学が多いことも、注目すべき点であります。この背景には「高大接続改革」の影響があります。入試制度自体が変わるのは、センター試験が廃止される2020年度からになりますが、「主体性・多様性・協働性」の新しい学力の視点から、個性をより評価するAO入試や推薦入

Q. 一般の定員枠が減る？

試等が拡大しているのです。16年度入試より東京大学でも後期試験が廃止され、推薦入試が実施されていますが、旧帝国大学を中心にAO入試や推薦入試の定員枠を拡大する傾向が見られます。

また、英語の4技能の力を持った人材を育成する方針から、多くの大学で英語の外部試験を導入する形の入試が始まっています。

例えば、高い実力を英検やTEAPのスコアなど英語の外部試験において示すことができた生徒には、申告により本試験の英語を満点扱いとする「みなし満点方式」。大学が定める基準点を英語の外部試験でクリアすれば英語は合格とみなし、その他の科目で合否が決まる「基準点方式」などの試験が始まっています。

つまり、このような入試が増えることは、従来の一般入試の定員枠が減ることを意味するわけです。従来の「知識」のみを試す試験だけで、一般受験のみを考えるのでは

なく、さまざまな形での入試にチャレンジすることを考えてみましょう。

そのためには、自分の考えを人に表現する機会をつくる、英検などの英語の外部試験を積極的に受験するなどの経験をしていきましょう。こうした機会は1回だけでなく、主体性があれば複数回チャレンジできることが魅力です。

このようなチャレンジは入試だけでなく、社会人になっても必要なスキルです。ぜひ、自分の考えを伝えるような機会や英語の外部試験に積極的に取り組んで、自分の可能性を広げましょう。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な「学び」の情報を紹介。次回は小学校編。



大学進学情報紙「TOSHIN TIMES」

CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布中

A. 高大接続、入試がより多彩に